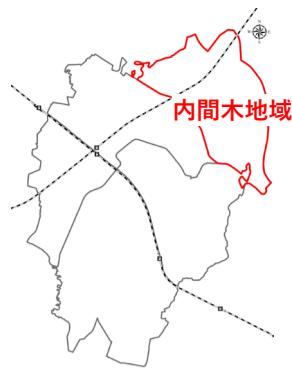


## 地域カルテ

### 内間木地域

対象地域：大字上内間木、大字下内間木、大字浜崎の一部、大字宮戸の一部、大字田島の一部



■ 5つのテーマ

暮 私らしい暮らし

賑 にぎわい・活力

移 快適な移動

続 持続可能

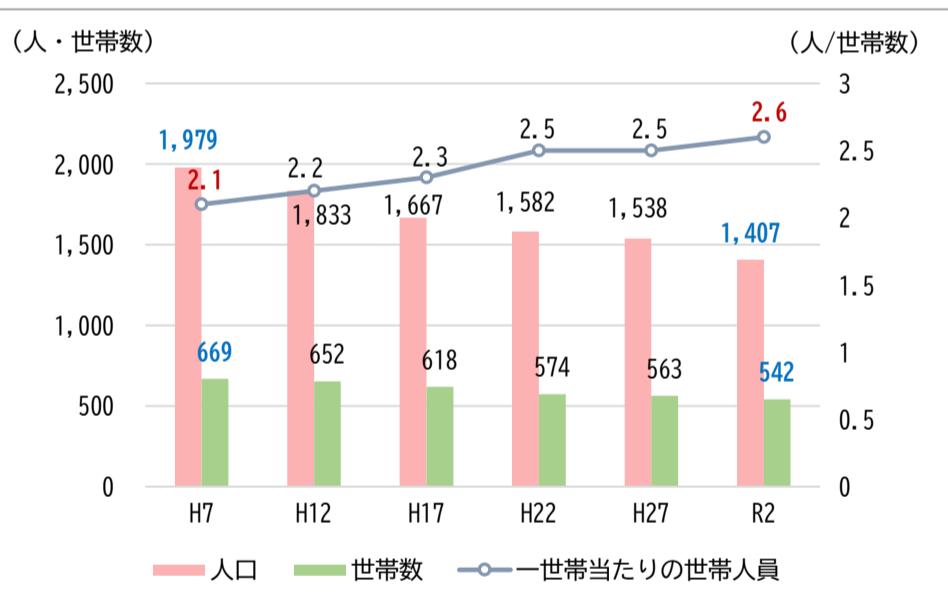
安 安全安心

基 基礎

人口	<ul style="list-style-type: none"> <li>人口は減少傾向にある。一方、R2の「老人人口（65歳以上）」は、H12（20年前）から約1.9倍に増加しており、R2時点では内間木地域の人口の45%を占める。</li> <li>H22～R2にかけて、地域内の北側の人口は減少している一方、南側の人口は増加している。</li> <li>人口と世帯数はともに減少しているが、1世帯当たりの世帯人員増加している。</li> </ul>
用途地域	<ul style="list-style-type: none"> <li>市街化調整区域のため用途地域は指定されていない。</li> </ul>
土地利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>「その他空地」の土地利用の割合は、H28～R2にかけて12%増加しており、R2時点では市全域より内間木地域のほうが「その他空地」が占める割合が高い。</li> <li>「その他の自然地」の土地利用の割合は、H28～R2にかけて15%増加しており、R2時点では市全域より内間木地域のほうが「その他の自然地」が占める割合が高い。また、地域内は「その他の自然地」に囲まれている。</li> <li>「工業用地」としての土地利用も地域内に点在しており、R2時点でも「工業用地」が占める割合も市全域より高い。</li> <li>川で他地域と分断されている印象がある。</li> </ul>
都市機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>都市施設が少ないため、施設を利用する際には地域外または市外に行っていると推察される。</li> </ul>
ハザードマップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>荒川の影響により、ほとんどの地区が洪水浸水想定区域に指定されており、最大浸水深が3m以上または5m以上の部分が大半を占める。</li> <li>緊急輸送道路が指定されている区間が少ない。</li> </ul>
道路の整備状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活道路に歩道が整備されていない箇所がある。</li> <li>国道254号バイパスを整備中。</li> </ul>
公共交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>バス停から300m圏にカバーされていないエリアがある。</li> </ul>
市道事故	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通事故は新盛橋東（交差点）付近で多く発生している。</li> </ul>

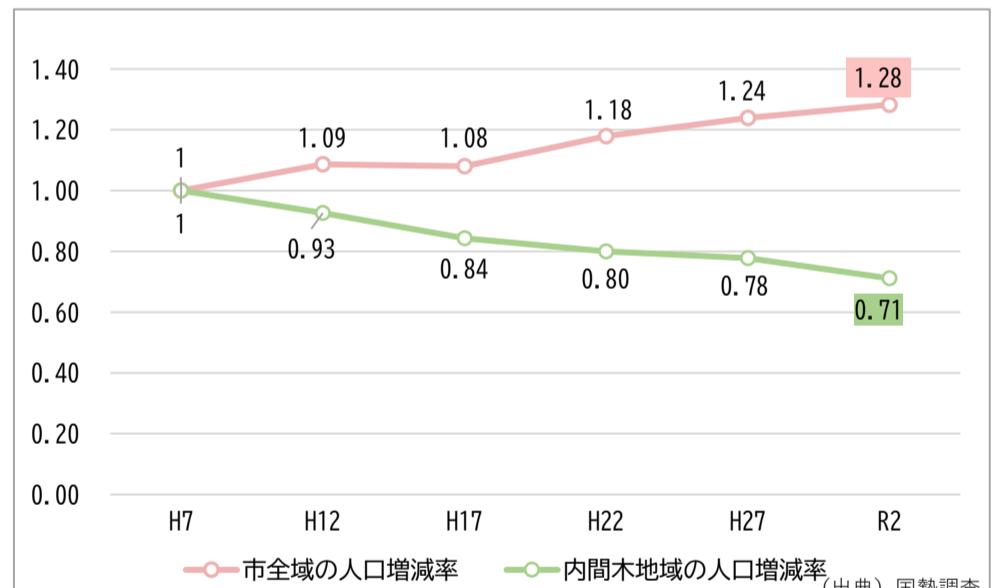
## 基 人口

### ■ 人口増減



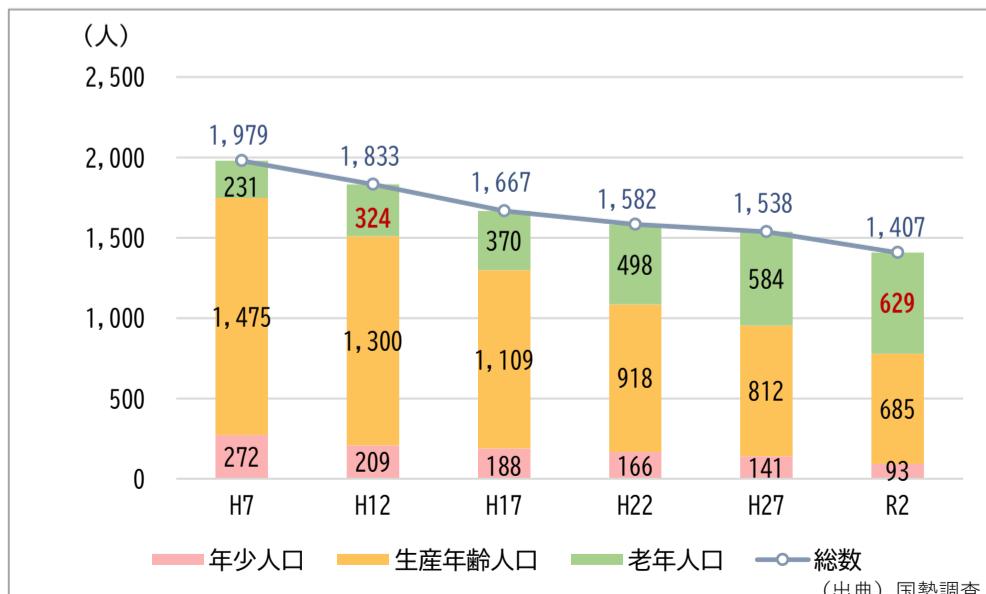
人口と世帯数はともに減少しているが、1世帯当たりの世帯人員増加している

### ■ 人口増減 ※H7の人口を1とした場合



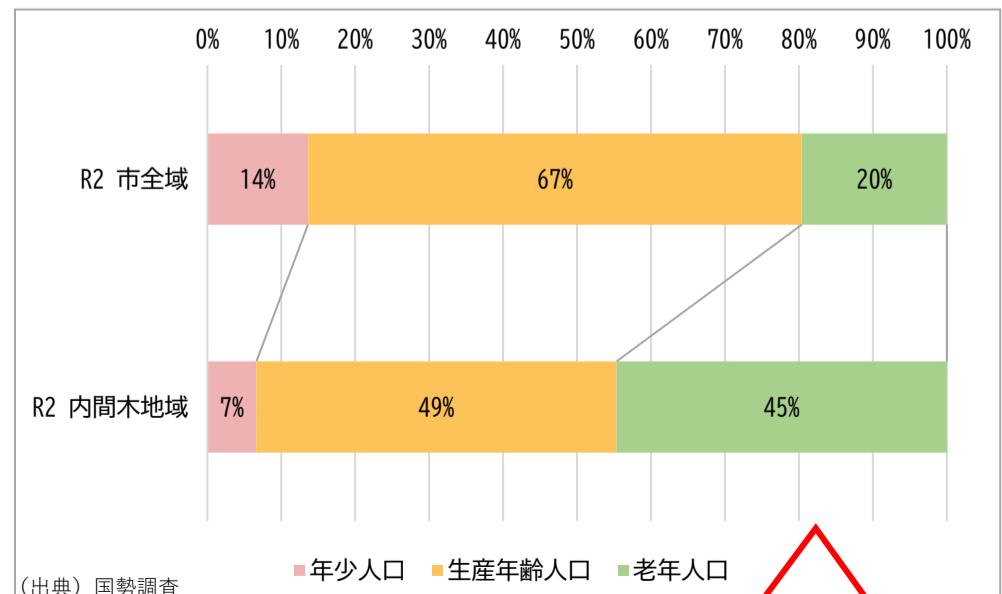
市全域の人口は増加傾向にあるが、内間木地域の人口は減少傾向にある

### ■ 年齢3区分別人口



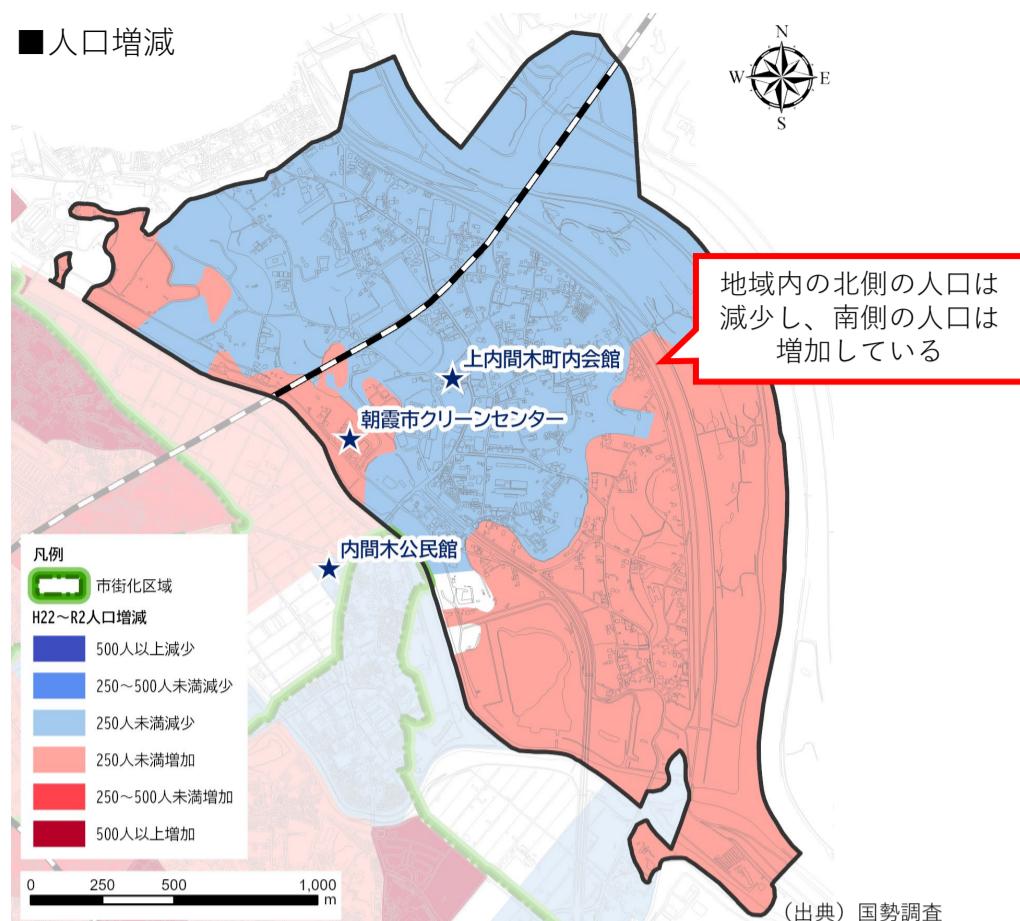
R2の老人人口はH12（20年前）から約1.9倍に増加している

### ■ 年齢3区分別人口（市全域と内間木地域の比較）



内間木地域の「老人人口」が占める割合は市全域に比べて高い

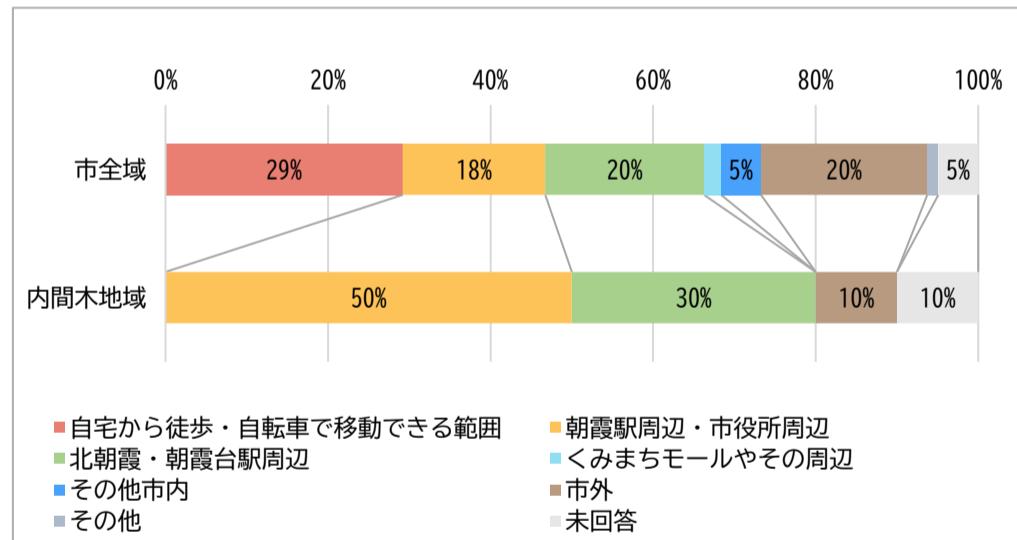
## 基 人口



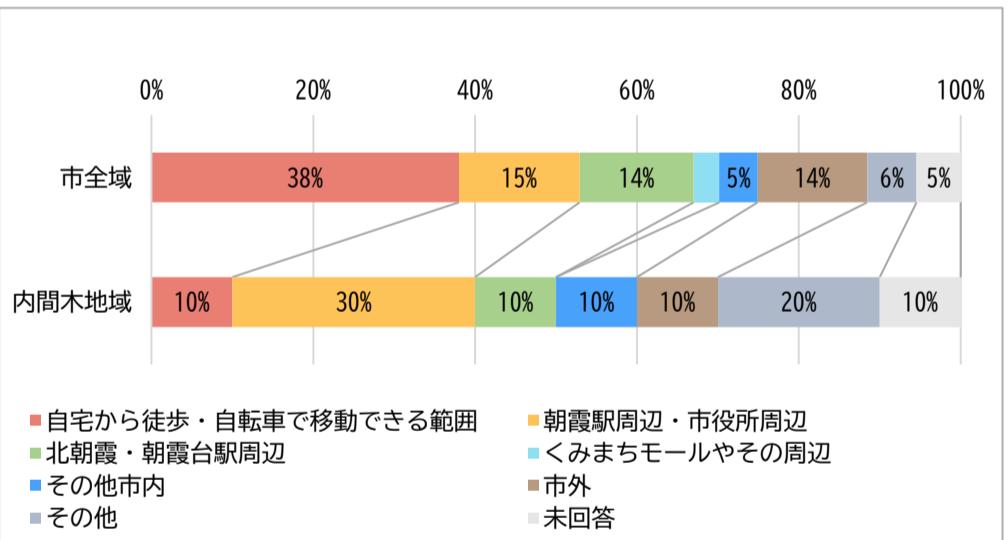
## 基 暮 市民アンケート（一部抜粋）

概要	【実施期間】 令和6年3月25日（月）～令和6年4月30日（火）
	【対象者 / 対象人数】 市内在住の18歳以上 / 3,000人（無作為の抽出）※Webでの調査も実施しました。
	【目的】 令和8年度からの次期計画を、より市民の暮らしに寄り添った計画とするために現在の状況や将来のニーズを把握する
	【内容】 「暮らし方（活動）」と「住まい方」について
回収状況	市全域：1,105件 / 内間木地域：10件 ※回答数が少ないため、地域の傾向を読み取るのは難しい

### ■ 通勤・通学先の場所



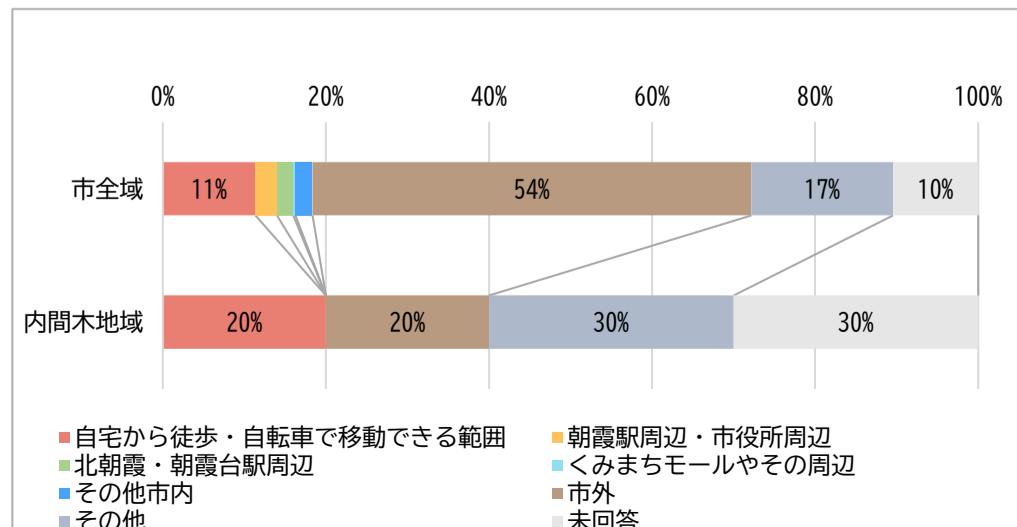
### ■ 平日に、食料品や日用品を買う場所



### ■ 大切に思う場所（複数選択可）

- 1位：公共施設（図書館、体育館、博物館等）：3票  
北朝霞・朝霞台駅周辺（店舗や飲食店等含む）：3票  
荒川・新河岸川：3票

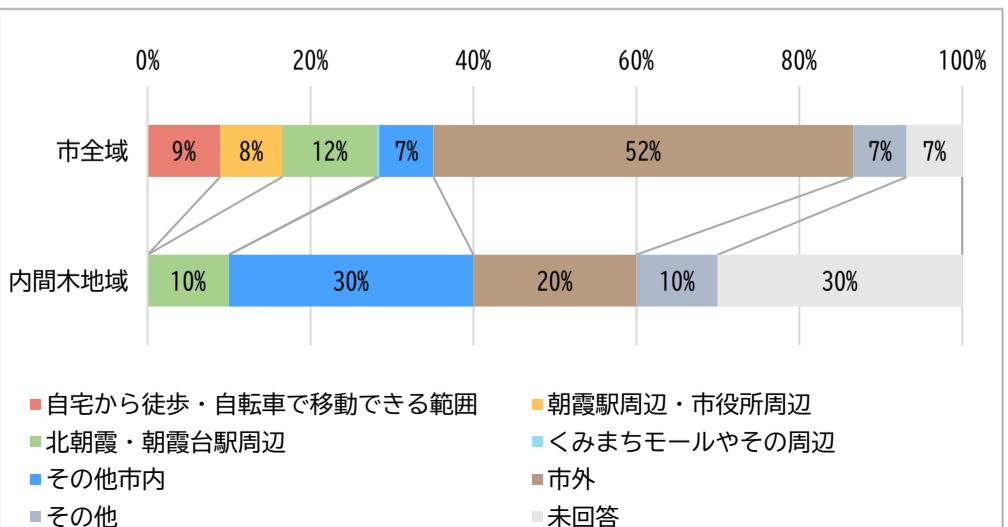
### ■ よくいく病院や診療所



### ■ 住まいの近くの地域にあったらいいと思う場所（複数選択可）

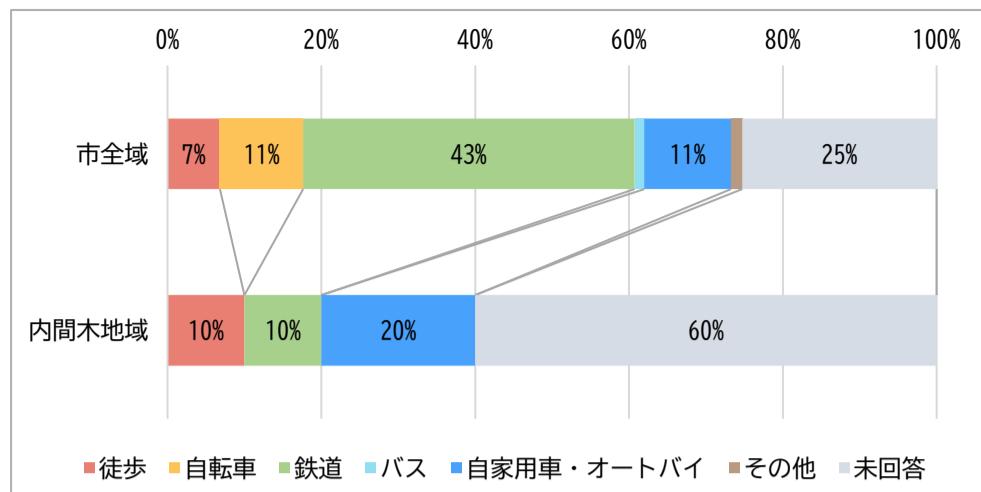
- 1位：飲食ができる場所：4票  
買い物ができる場所（スーパー・コンビニ等）：3票  
子育て・福祉等公共サービスが相談・利用できる場所：2票

### ■ 休日に家族や友人とゆっくり外食をしたい場所

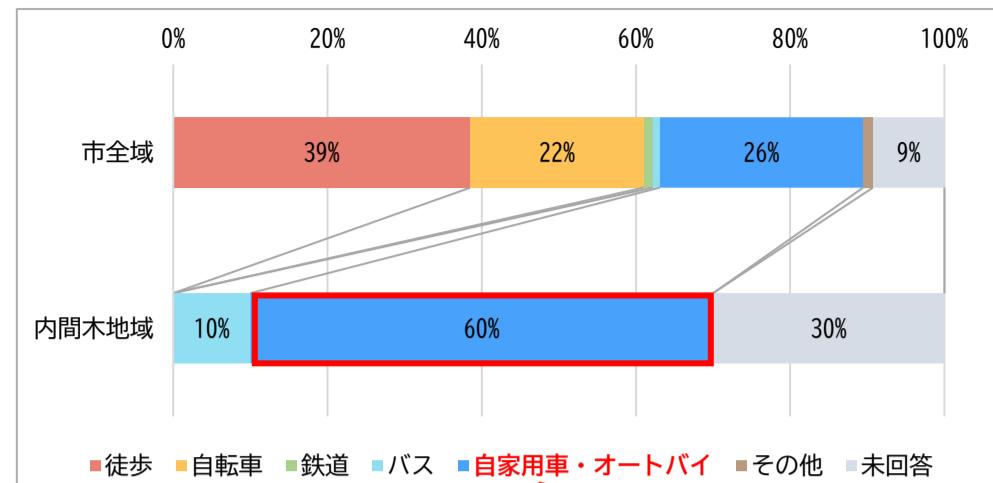


基 移 市民アンケート（一部抜粋）

#### ■通勤・通学の交通手段（平日）



## ■ 買い物等の日常生活の交通手段（平日）



基 用途地域

■ 用途地域



(出典: 都市計画決定データ)

- ・**市街化区域**とは、都市計画区域内において、すでに市街地を形成している区域及び概ね10年以内に優先的かつ計画的に**市街化を図るべき区域**のことです。

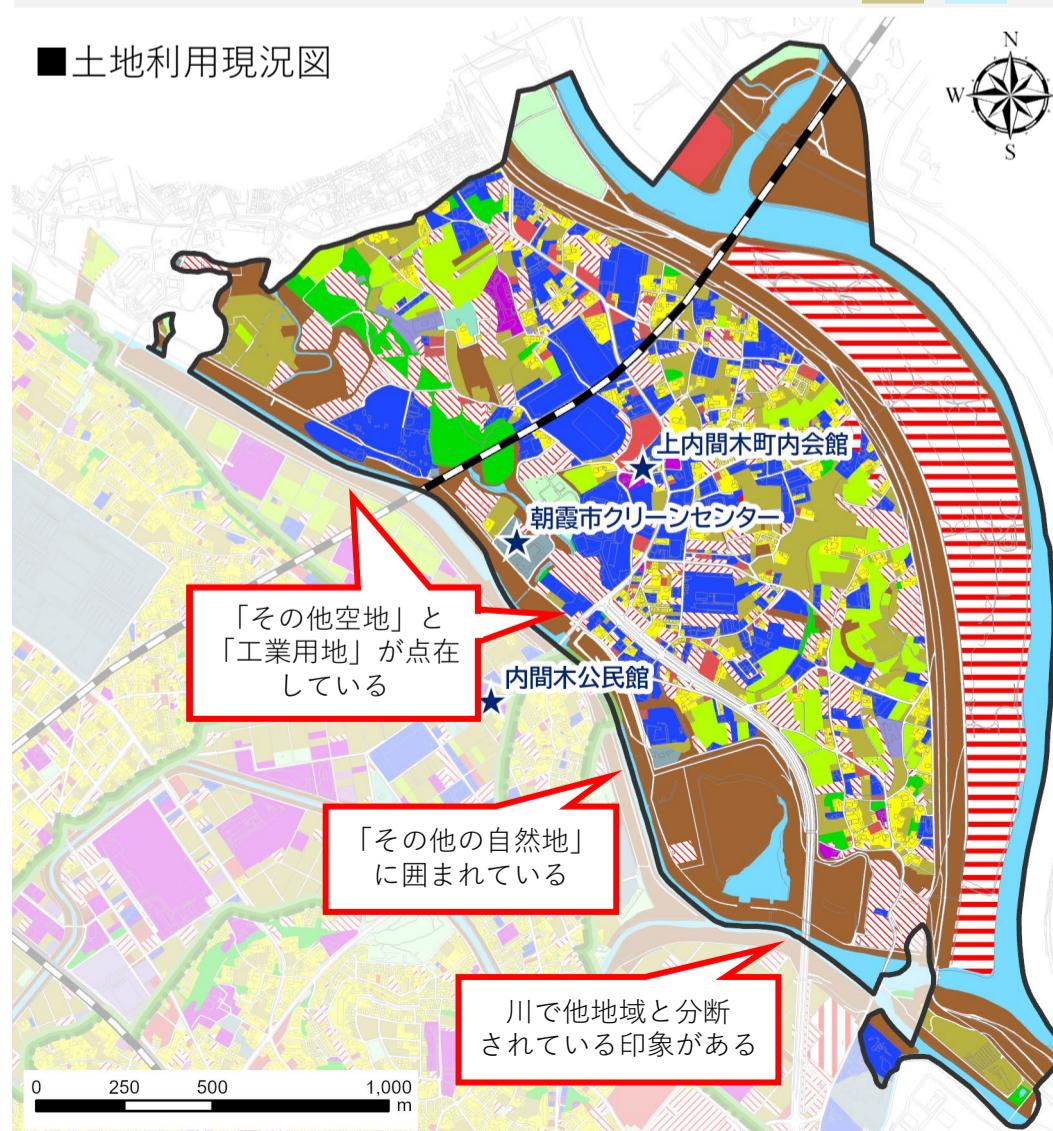
- ・市街化調整区域とは、都市計画区域内において、**市街化を抑制すべき区域**のことです。原則として建物の建築が制限されます。

## 【区域区分のイメージ】



## 基 繼 土地利用

## ■ 土地利用現況図

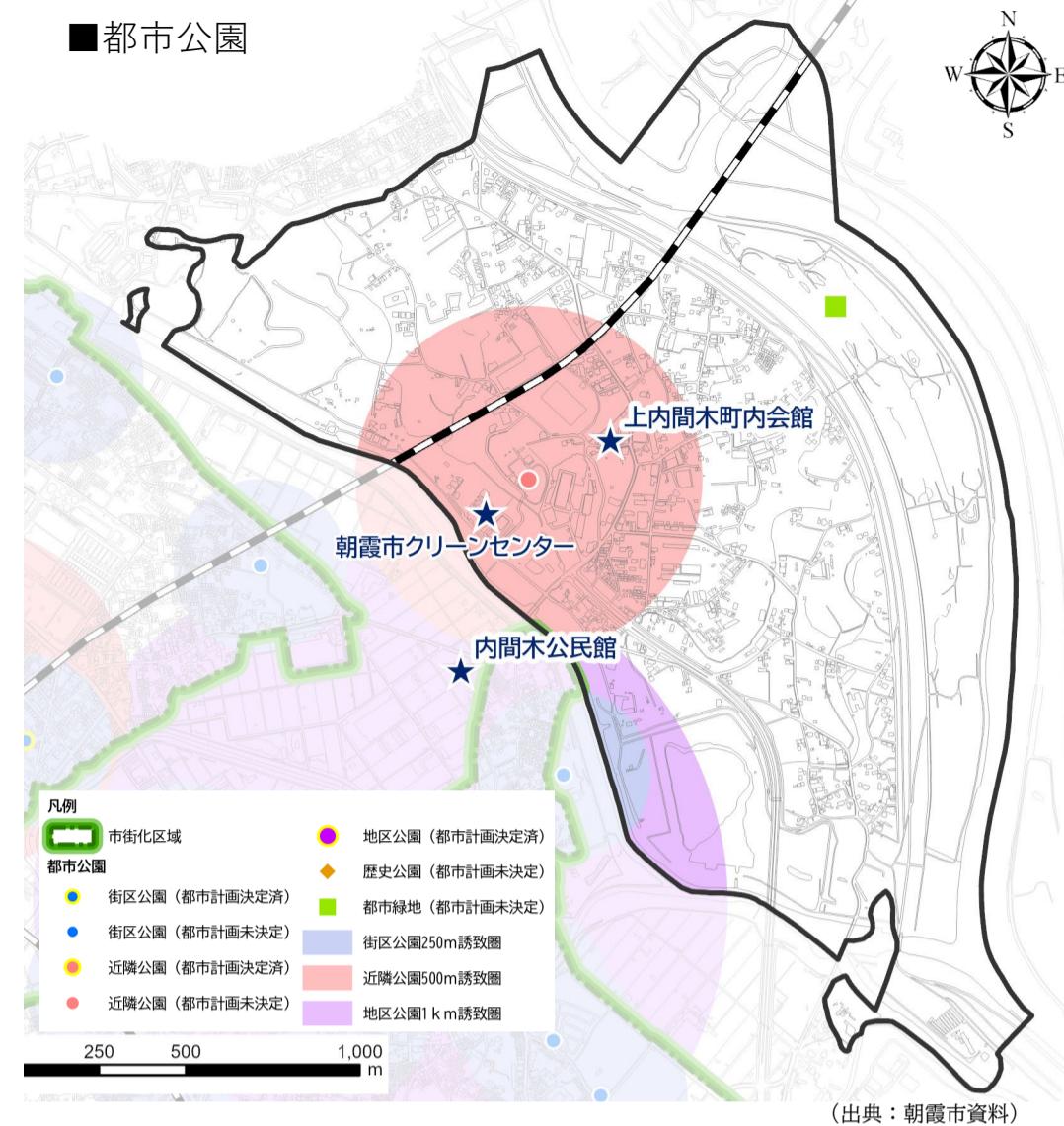


#### ■ 土地利用現況の割合（出典：R2都市計画基礎調査）





(出典：朝霞市立地適正化計画)



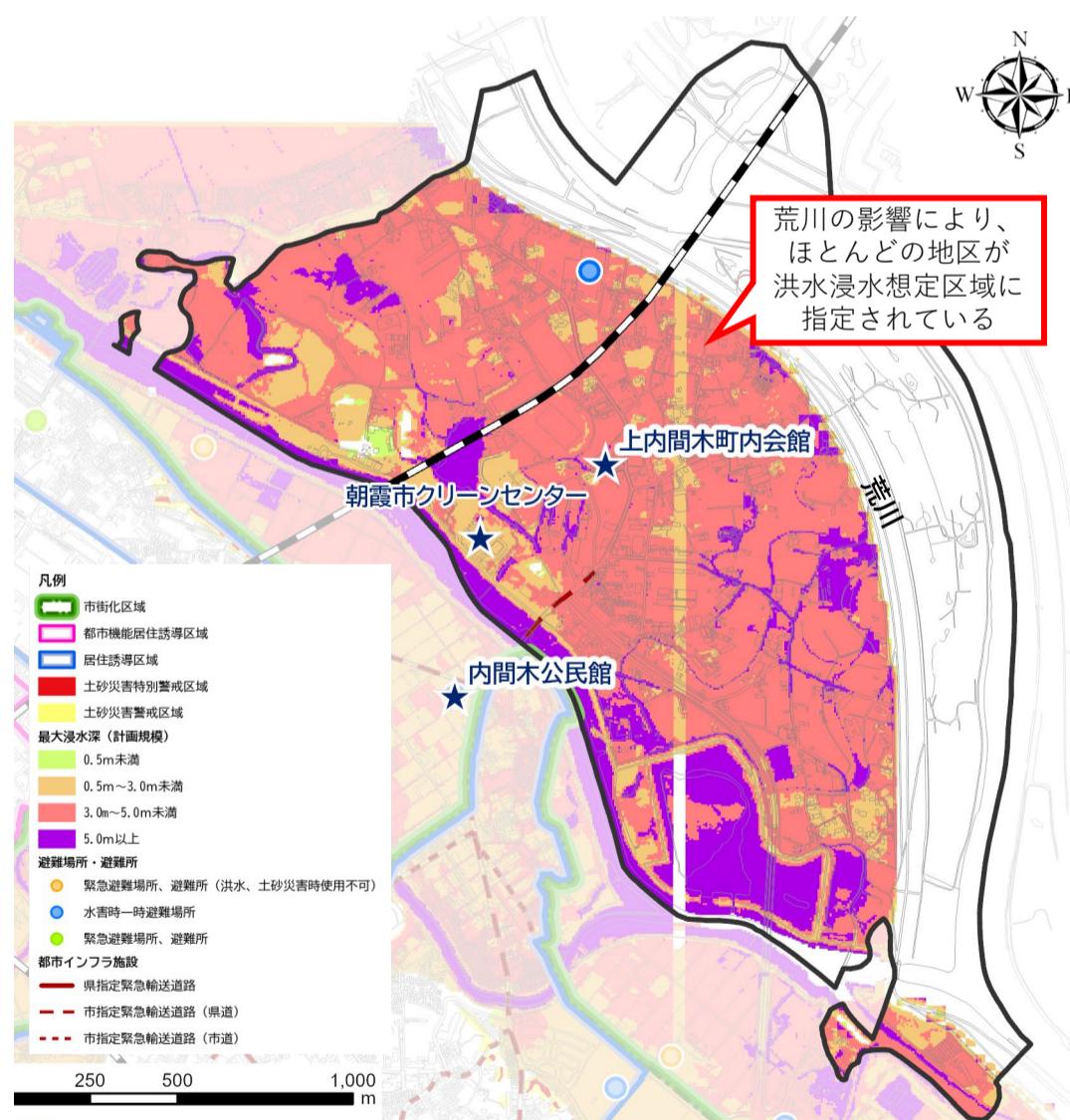
(出典：朝霞市資料)

## 安 ハザードマップ

**■住宅密集市街地**  
(地震や火災が起きたときにリスクがあるエリア)

緊急輸送道路がほとんど整備されていないため、災害時における物資の輸送が困難になるおそれがある

(出典：朝霞市立地適正化計画、朝霞市資料)

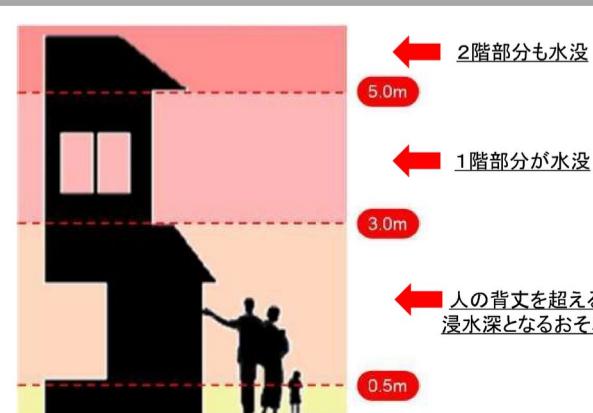
**■洪水浸水想定区域及び土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域**

(出典：朝霞市立地適正化計画、朝霞市資料)

## 『浸水深』に関する災害リスク基準（垂直避難）

一般的な家屋では、浸水深0.5m以上で1階が床上浸水するため、立退き（水平）避難か2階以上への垂直避難が必要になります。また、浸水深3mでは2階にも床上浸水するため、浸水深3m以上で垂直避難が困難になります。

(右図参照)



※洪水浸水想定作成マニュアル(第4版)から抜粋した図を一部加工

(出典：朝霞市立地適正化計画)

## 移 道路の整備状況

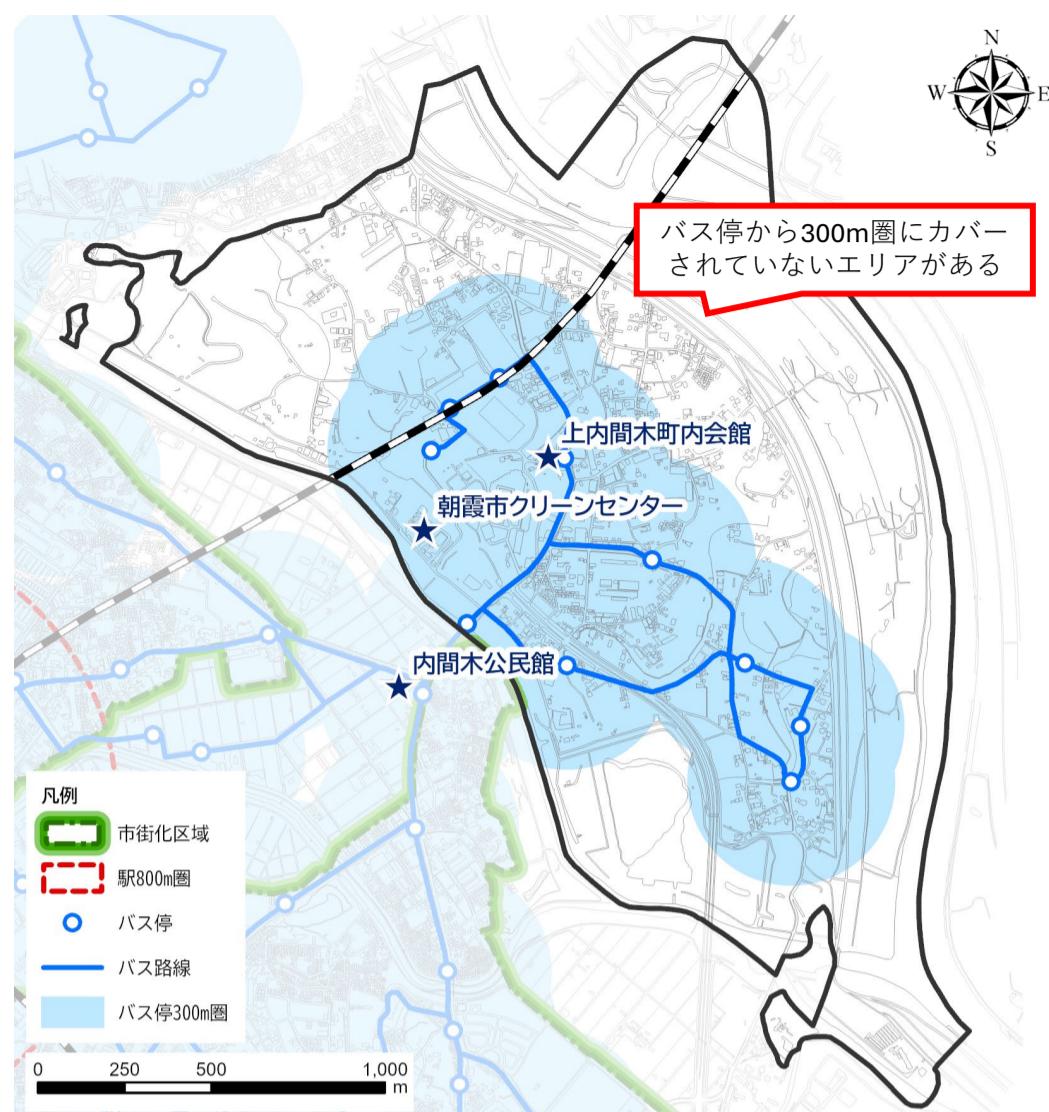
### ■道路網及び都市計画道路整備状況



(出典：朝霞市資料)

## 移 公共交通

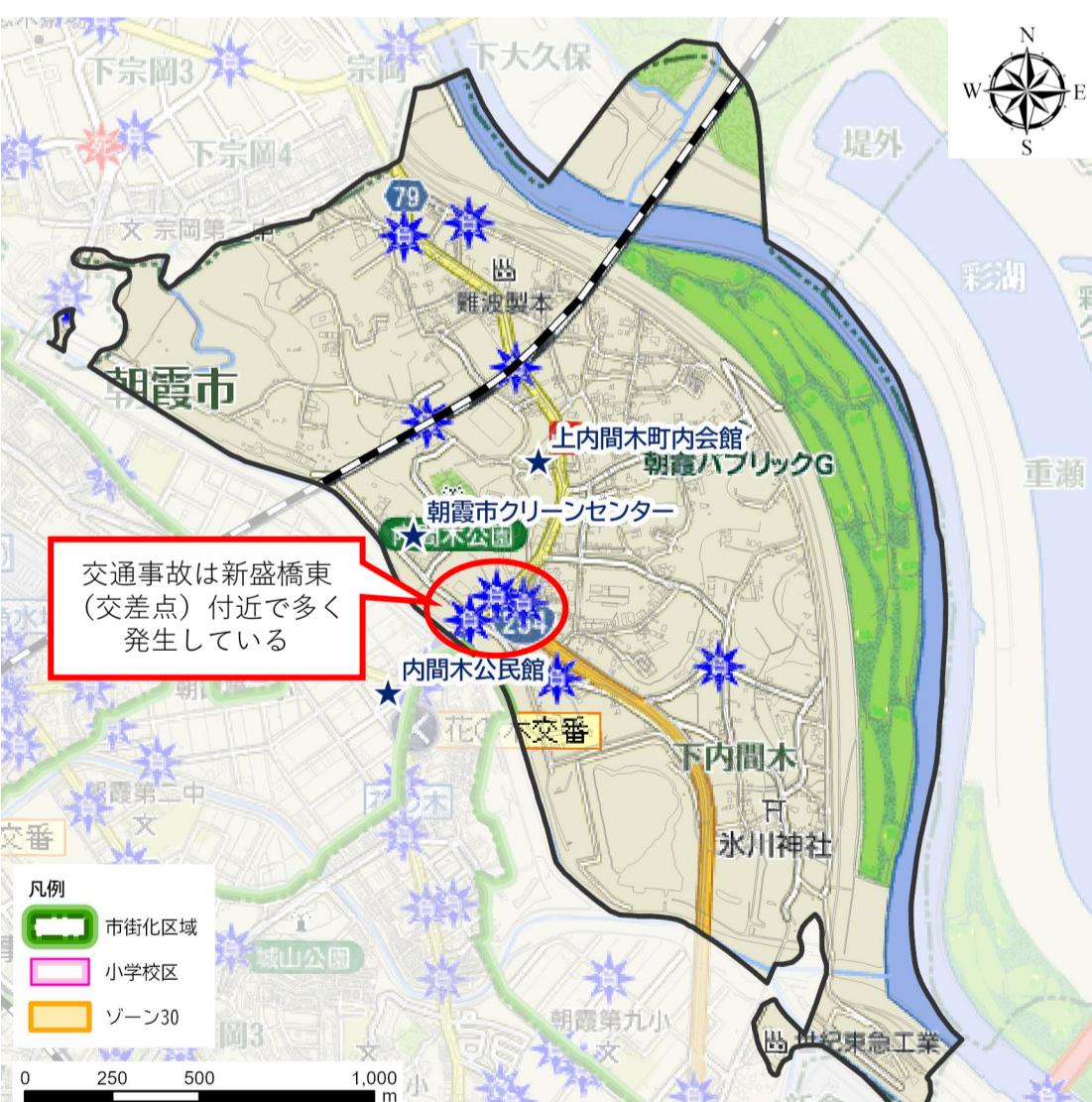
### ■公共交通



(出典：朝霞市立地適正化計画)

## 移 市道事故

### ■交通事故発生箇所の分布 (R5.6—R6.6)



(出典：埼玉県交通事故マップ)

